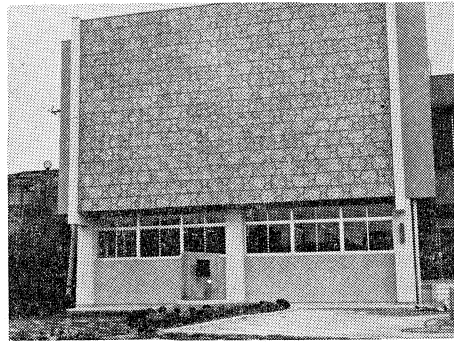


薬学部図書室落成



昭和37年12月の火災によって薬学部図書室も全焼し、その蔵書の大部分は灰じんに帰した。昭和14年医学部、薬学科創設以来、苦心して集めたものだけに、その焼失は各方面から惜しまれた。文部省も火災後の図書の復旧には非常な努力を払い、また一方卒業生、薬界こぞって、その復旧を援助して来た。一時

薬学部新館5階を仮図書室に当て、まず失った図書を再び集める努力が払われたが、これもようやく実を結んでようやく学部の図書室の機能を回復したが、何としても新しい図書室としての建物を作りたいという望みは学部内にますます強くなった。昭和33年の薬学部独立を記念して薬学部記念館の建設の動きがあったが、火災その他種々の理由でこれが延期されていた。薬学部第三期工事着工を機に記念館建設に着手することになり、その中に図書室を作ることとなった。昭和41年4月、記念館の階下に待望の図書室が完成し、5月14日竣工披露が行なわれるに至った。昭和14年以来の夢がようやくしてここに実現を見たのである。

図書室はフロー式で、面積 273.6 m² という小規模ではあるが、自由接架式で、冷暖房設備をそなえている。総面積の約半分を書架が占め、その他が閲覧所と事務所となっている。蔵書冊数は約一万とまだ理想には程遠いが、今後10年間の図書の増加分を収容できる予定である。ゼロックスその他文献複写設備もあり、この方面の利用者も極めて多く、館員は目下定員2名、開館以来毎日100名近い入館者があり、どのようにして能率的に事務処理をしようかと頭をなやます現状である。

新しいものはますますよくしたいというのが人情で、予算の許す範囲で如何にすればさらに図書室をよくすることができるかと毎日を楽しんでいる。

— 資料紹介 —

○ Union Catalog of Foreign Books acquired by 49 Libraries in Japan, 1963.

(新収洋書総合目録) 国立国会図書館編 1965年刊 865 P (非市販)

全国の大学等主要図書館が、昭和38年(1963)に新しく収蔵した洋書のうち、昭和36年(1961)以後に刊行された図書(定期刊行物を除く)を収録している。それらが著者名のアルファベット順に排列され、同一図書ごとに所蔵館名をまとめて記してある。収録数は31,693標目(副出・分出・及び参照記入1,578標目を含む)。

目指す図書が自館にない場合、この目録を見ることによって、その図書を所蔵している図書館が他にあるかどうか知ることができる。あれば、図書館間の相互貸借ルートによって、所蔵館から借用したり、または複写を依頼して、利用者の便宜をはかることも行なわれる。全国の図書資料をひろく、多くの利用者に供するために欠くことのできぬ資料の一つといえる。

なお本館では、既刊の1959~1962年度のものもあわせて参考図書室に置き、利用を待っている。